

Anti-Bovine Osteocalcin, Monoclonal (Clone OCG2)

Code No. M042

Size: 0.1 mg Mouse Ig

Subclass: IgG1

※ 適切に保存し、受取り後2年を目途にご使用ください。

●由来

ウシ骨由来オステオカルシン¹⁾ 感作 BALB/c マウス脾臓細胞とマウス骨髓腫細胞 P3U1 を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスの腹腔内で増殖させて得られた腹水。

●製法

カラムクロマトグラフィーによりイムノグロブリン (IgG) として精製後、1.0%ウシ血清アルブミンを含む 10 mM PBS (pH7.4) に溶解して凍結乾燥。防腐剤を含みません。

●形状 凍結乾燥品

●抗体の復元

50 μ l の純水で溶解する (2.0 mg/ml となる)。これをストック溶液とし、使用時に希釈が必要な場合は下記の希釈液を用いる。全量を使い切る場合は、500 μ l 以上の希釈液で直接溶解することもできる。

(注 1) 抗体濃度が低いと保存安定性が下がる可能性があるため、保存は必ず上記のストック溶液 (2.0 mg/ml) で行ってください。

(注 2) 復元した抗体溶液を 4°C で保存する場合は、防腐剤として 0.1% アジ化ナトリウムを添加してください。

●希釈液 10 mM PBS (pH7.4)
1.0% ウシ血清アルブミン
(0.1% アジ化ナトリウム)* 1

* 1 : 4°C で保存する場合は防腐剤として加えてください。

●特異性

エピトープ	45-49 位
特異性	ウシ、ヒト由来のオステオカルシンと反応する。 マウス、ラット由来のオステオカルシンとは反応しない。

●保存 4°C

本製品は防腐剤を含んでいません。復元後のストック溶液 (2.0 mg/ml) は必要に応じて分注し -20°C 保存で 1 年、もしくは防腐剤 (0.1% アジ化ナトリウム等) を加えて 4°C 保存で 6 ヶ月を目途にご使用ください。凍結融解の繰り返しは避けてください。また、希釈後の保存はなるべく避けてください。

●使用抗体濃度 10 μ g/ml (免疫組織染色)

●用途

オステオカルシンの検出や生合成 (γ -カルボキシル化) の研究

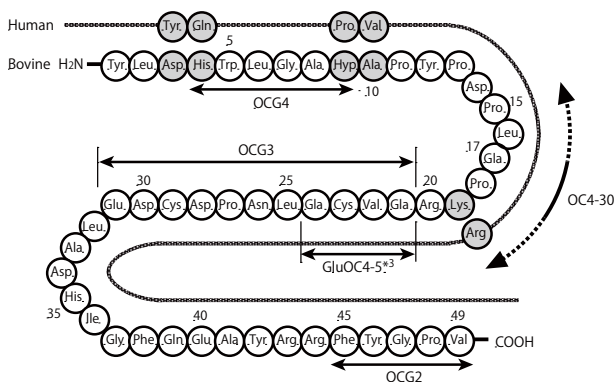
	パラフィン 包埋切片	凍結切片	ウェスタンブロット		サンドイッチ ELISA * 2
			還元	非還元・非加熱	
OCG2	良好	○	○	○	OCG3

* 2 : 本製品はウシ血清アルブミンを含んでいるため使用できません。

●参考文献

- 1) Hauschka P U, Lian J B, and Gallop P M. *Proc Natl Acad Sci USA*. (1975) **72**: 3925.
- 2) 保木志朗 *THE BONE* (1989) **3**: 59-70.
- 3) Koyama N, Ohara K, Yokota H, Kurome T, Katayama M, Hino F, Kato I, and Akai T. *J Immunol Methods*. (1991) **139**: 17-23.
- 4) Vergnaud P, et al. *J Clin Endocrinol Metab*. (1997) **82**: 719-724.
- 5) 廣田佳子 他 ホルモンと臨床 (1998) **46**: 71-75.
- 6) 三浦雅一 *THE BONE* (1998) **12**: 47-51.

●Osteocalcin epitopes



* 3 : OC4-5 : ヒトオステオカルシンの 21 位および 24 位がグルタミン酸 (脱カルボキシル化状態) である場合のみ反応する。

●注意

本製品は研究用として販売しております。ヒト、動物への医療、臨床診断用には使用しないようご注意ください。また、食品、化粧品、家庭用品等として使用しないでください。タカラバイオの承認を得ずに製品の再販・譲渡、再販・譲渡のための改変、商用製品の製造に使用することは禁止されています。ライセンスに関する情報は弊社ウェブカタログをご覧ください。本データシートに記載されている会社名および商品名などは、各社の商号、または登録済みもしくは未登録の商標であり、これらは各所有者に帰属します。

v201902Da